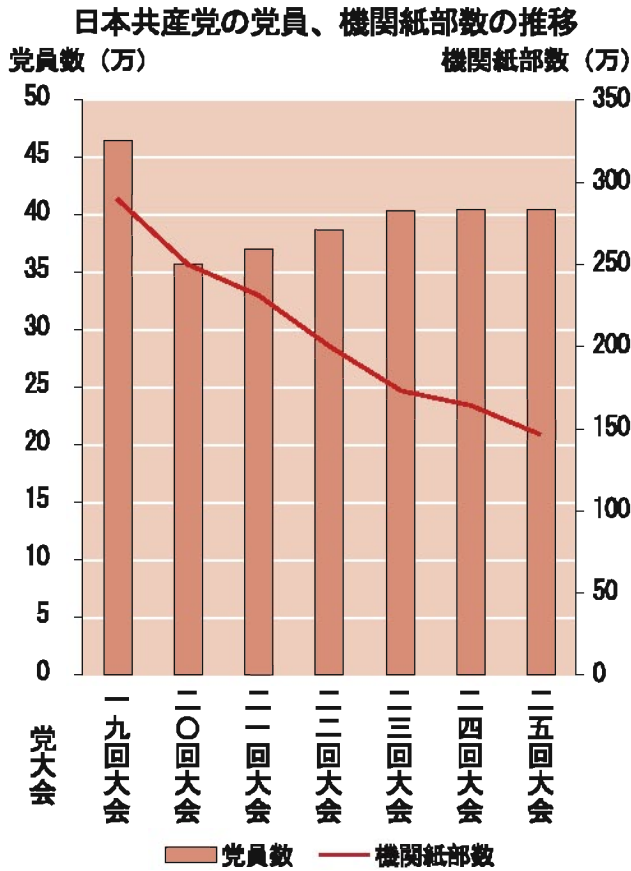


日本共産党

第二五回党大会開催結果

日本共産党は、平成二二年一月、四年ぶりに第二五回党大会を開催しました。

中央委員会の人事では、不破哲三前議長が常任幹部会委員に再任されたほか、志位和夫幹部会委員長、市田忠義書記局長も留任しました。新中央委員会の体制は、中央委員一六三人、准中央委員三五人の合計一九八人となりました。



志位委員長の初訪米

また、党员数が四〇万六、〇〇〇人で前回に比べ約一、七〇〇人の微増、機関紙読者数が一四五万四、〇〇〇人で前回に比べ一八万六、〇〇〇人の大幅減となりました。

志位委員長は、二二年四月三〇日から五月八日までの九日間、党のトップとして初めて訪米し、ニューヨークとワシントンを訪問しました。

ニューヨークでは、核兵器不拡散条約（NPT）運用検討会議の関係者等と、ワシントンでは、米国務省日本部長や連邦議会下院議員とそれぞれ会談しました。



ニューヨーク市内で記者会見する志位委員長（共同）



参院選の開票速報を確認する志位委員長(右)と市田書記局長(共同)

参院選における「選挙闘争」

日本共産党は、二二年七月の第二二回参議院議員通常選挙で、沖縄選挙区を除く四六選挙区に四六人、比例代表選挙に一八人の公認候補を擁立しました。結果は、比例代表選挙での三議席の獲得のみで、改選前四議席から一議席後退しました。

参院選の総括と今後の取組方針

志位委員長は、第二回中央委員会総会(九月)で参院選を総括し、党中央の指導や活動に弱点があったと言及し、その在り方を抜本的に改善・刷新するとしました。一方で、党員の高齢化等、党員の実態を明らかにし、若い世代、現役労働者の中での党員拡大を訴えました。

また、次期統一地方選挙については、現有議席の確保と前進を、次期衆院選については、比例代表選挙での六五〇万票以上の得票と全国一ブロックの全てでの議席獲得・議席増等をそれぞれ目標に掲げました。

